
高校生回顧録

エナカ ユイリ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高校生回顧録

【Zコード】

Z2242BA

【作者名】

エナカ コイリ

【あらすじ】

奥村飛鳥。独身、玩具会社社員。彼はある日、母校が廃校になると同級生から聞かされた。そして彼は高校時代を振り返り、今の自分を見つめ直す。

俺、高校時代のあだ名『復刻大臣』にかけて最後の仕事をします。

第一話

母校が廃校になる。と俺と同じく高校の近くに住んでいる宮地大
から聞かされた。

「一つ向こうの駅の近くにある高校と合併するらしい。たまたま口
نبーで会つたからヤツに聞いても実感が無い。もちろん、驚いた。
俺の一番思い出深い場所の役目が終わるのだから。けれど廃校まで
あと一年もあるところ。

そういうえば、十年ぐらい高校に行つてないな。

俺は、来年の文化祭は一緒に行こうと宮地に言つて帰つた。
あの頃、何に熱中していただろう。何が流行つていただろう。そ
う帰る道中車内で思い出す。

夏休みが終わり、一学期が始まろうとしていた。生徒の気は緩み、頭の色や耳にピアスなど夏休み前と様子が変わっている者が多数いる。

部。 奥村飛鳥。 おぐむはすか。 名前の割に男。 十六歳。 海里ヶ丘高校二年三組。 歸宅。

得意なこと無し。親友と呼べる人
最近ハマっているモノ、古いモノ。

皆、彼を『復刻大臣』と呼ぶ。

「大臣おはよ」

飛鳥に声をかけたのは、親友その一の富地。遅刻、ギリギリで始業式の会場、体育館へ向かつて走っている。

「おい富地、間に合うのか？」

「大臣、お前も歩いていないで急げよ」

「確かに」

一人は走つてクラスの列に入る。
もつと時間に余裕を持つて来いとクラスの整列の責任者、評議委員に軽く怒られた。

お昼頃、下校。

部活のある者は即座に部室へ。

富地は飛鳥に別れを告げて男子テニス部の部室へ行く。

「男テニ、明後日休みだから遊ぼうなー」

とも言つていた。

「俺がバイトだから無理だわ～」

「マジか…」

落ち込む富地の背中は寂しかった。

「二人とも忙しそうで。大臣、帰るよ」

そして今、飛鳥に声をかけたのが親友その二、林田慶輔。はやしだけいすけ通称、リングダ。学年の中ではかなりのイケメン。いつも冷静だが、時々尖った態度に豹変する。

「おう」

「今日、ステップの発売日だから立ち読みしに行こうよ」「そうだな。先週のツーピースやばかかったよな?」

古いモノオタクの俺、運動バカ富地、トンガリキャラのリングダの三人組。これが俺たちにとつてのいつものメンバーだった。

この頃、あんな複雑な関係になつてしまつとは思わなかつた。それは文化祭前、俺が彼女と別れてから始まつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2242ba/>

高校生回顧録

2012年1月5日18時54分発行